


平成 27 年度中央地区人権問題講演会報告

テーマ	子ども虐待をなくすために	
日時	平成 27 年 12 月 14 日 (月曜日) 午後 2 時から午後 4 時まで	
場所	尼崎市立中央公民館小ホール	
講師	一般財団法人 児童虐待防止機構 理事長 島田 妙子 氏	
参加者	88 人	
事業の目的	<p>子どもの頃、虐待を受け、現在、虐待防止のための活動を積極的に行っている講師の話聞き、大きな社会問題、子どもの人権課題となっている児童虐待をどのように捉え、なくしていくためにはどのようにしたらよいか、学び考える機会とする。</p>	
講演内容	<p>講師の虐待体験</p> <p>4 歳の頃、両親が離婚し、2 人の兄と共に児童養護施設に入所した。7 歳の時に父親が再婚し家庭に復帰したが、継母と父親による壮絶な虐待が始まり、何度も命を落としかけた。虐待は中学 2 年の時、気づいた担任の教師に助けられるまで続いた。</p> <p>虐待防止の活動</p> <p>平成 22 年 12 月に 2 番目の兄が亡くなったことをきっかけに、虐待防止のための活動に取り組み始めた。22 歳の若さで急に 3 人の母親になってしまった継母、継母から 3 人の連れ子のことをうるさく言われ続けた父親として、虐待を行った 2 人を客観的に見つめ、「虐待をしてしまう大人も助けたい」と活動を行っている。</p> <p>アンガーマネジメント</p> <p>その活動の 1 つとして、怒りの感情をコントロールするアンガーマネジメントの考え方を広めている。コップを心、玉を怒りの感情に例えると、怒りの感情が積み重なり玉がいっぱいになると、コップから玉があふれてしまう。その感情が、他人には虐待、自分に向かう場合は自殺といった衝動的な行動として表れてしまう場合がある。</p> <p>そうならないために、玉がコップからあふれないように玉を抜くこと、そして、コップを大きくすることが大切である。具体的には、カチンときた時には反射的に怒ら</p>	

	<p>ず、6秒間やり過ごし、その後、怒るか怒らないかを判断するということと、もう1つは、相手に対する「～べき」を減らし「まあいいか」を増やすことである。</p> <p>それにより、怒りの感情をコントロールすることができるようになる。</p>
<p>参加者からの 感想</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童虐待を防ぐには大人を守ることが大切という視点がすばらしい。全体として話が具体的でわかりやすかった。 ・ 現代人の悩みの多くは、人との関係から生まれていると思います。自分の心をどう整えていくか、本日の話は大いに参考になりました。 ・ P T Aの皆さんや友人たち、家族にもぜひ今日のお話を伝えたいと思いました。 ・ アンガーマネジメントの話は初めて聞きました。これからの日常生活に生かして、怒らず楽しくあの世を目指します。ありがとうございました。 ・ 実体験に基づく講演内容で、大変説得力があった。話し方についてもユーモアたっぷり、とても聴き易く、とても良い講演会であった。一人でも多くの人に聴いて欲しいと思った。 ・ ご自身の虐待の体験を踏まえて、被害者の立場だけでなく、加害者の立場にも立って「救うことが大切」だとお話をされたのには驚きました。私には無関係だと思っていましたが、周りにそういったことがあれば、今日学んだことを生かしたいと思います。 ・ 虐待するなんてありえない、最低、と思っていたが、する側にも何かきっかけや理由があることを学べた。もちろん虐待を受ける子どもからすれば、そんな理由など関係ないが、周囲がその親を責めるのではなく救ってあげること、そのためには通報することも必要な手段の一つであることを学べた。 ・ たくさんの参加者がいたので一人ひとりが伝えていければと思った。民生委員の参加者も多数見受けられ、広報の努力を感じた。
<p>成 果</p>	<p>児童虐待の問題について認識を深めることができ、また、アンガーマネジメントの考え方は、それぞれの参加者の次の行動に向け、大いに参考となったと考えられる。</p>